

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173000035		
法人名	社会福祉法人 富良野あさひ郷		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム 北の峯		
所在地	北海道富良野市中御料地2067の3		
自己評価作成日	平成23年9月10日	評価結果市町村受理日	平成24年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173000035&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173000035&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然あふれる散歩コースがあり、木々や皆で作っている畑の野菜や花などを眺めながら、毎日散歩へ行っており、皆さん健康的に過ごされています。</li> <li>・毎月避難訓練を実施、職員全員がいざという時にあわてず冷静に対応ができる事を目標に訓練を行っています。また、内部研修、認知症ケア研修も毎月開催し、日々のケアに活かせる様、各職員が担当となり勉強しています。</li> <li>・各個人に担当が付いており、日常等について常に気にかけており、毎月の家族への連絡、報告を密にしている、また、本人の希望に添える様な誕生日外出等を家族もふまえて(相談したり、一緒に参加してもらったりしている)喜んで頂けるように考慮して行っている。</li> <li>・季節に応じた外出(お花見、お祭り、さくらんぼ狩り、菊花展)などに行き楽しく過ごしてもらっている</li> <li>・衛生管理の為、毎日の消毒、掃除をしている。</li> </ul>
--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年10月27日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、自然に恵まれた環境に立地している。運営法人は、障害者支援施設や特別養護老人ホーム、多機能型事業、公益に関する事業など14事業17事業所を展開する37年の歴史を持つ社会福祉法人である。当事業所の職員は、利用者がその人らしい生活が送れるよう常に理念を意識したサービスのあり方をチームとして考え、実践力を持って日々のサービス提供に努めている。外部研修で学んだ「介護職員が入居者の認知症の介護診断を行ってみよう」等の内容を毎月事業所単独で実施している認知症ケア研修会で取り上げて実践したり、別途、年間計画を立てた内部研修では職員自らテーマのプレゼンターとなるなど研鑽を積んでいる。外出やレクリエーション、季節行事など楽しみ事の企画は草案を立て実施し、活動後にプロセスを評価し、次回に活かしている。利用者一人ひとりのコミュニケーションを多く持ち、関心を払うことを大切に、穏やかに過ごせるように適切且つ良質な支援に努め、利用者との信頼関係も良好である。家族とは連絡や相談を密にして本人と共に支える関係を大切にしている。重度化の利用者の移行支援や防災対策等での運営法人によるバックアップ体制を築いている。</p>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた地域密着型サービスの意義をふまえた理念があり、ホーム内に掲示してある。日々理念に基づいたケアサービスができる様、職員全員で取り組んでいる。	法人の3つの経営理念を根幹とする事業所独自の理念を標榜し、それらを常に職員が意識できるよう、また、来訪者や家族等にも伝わるよう筆字で大きく書写して共有空間に掲げている。重要事項説明書に明示している運営方針についても施策を持って具現化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	個人の外出やホームでの行事でお祭りを見に出掛けたり、市内のGHのお祭りに参加したり、当GHのお祭りに来てもらったりしている、また、散歩の時に会った人に挨拶をしたり、向かいの託児所の子供とのふれあいもある。	近隣に住む住民との挨拶を通じたふれ合いや外出先では安心してその場に馴染めるよう、そこで出会った人達との交流も図れるようサポートしている。地域の祭典や同業者主催のイベントに積極的に参加している。また、住民による大正琴、三味線演奏の慰問や野菜、苗のお裾わけがあるなど、地域と良好な関係を保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みや見学者、面会に来られた方々から相談等あった際は、認知症について対応の方法などお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を実施している。入居者の状況や行事の様子など報告しており、その際、委員の方より情報やご意見を頂きそれをサービス向上へ活かしている。また、ホームの行事にも参加して頂いている。	前年度よりメンバーを10名体制にしてより多くの地域関係者が集い、交流できる場となるよう、また、写真を多く用いたパワーポイントを使用して事業活動を分かりやすく報告するなど、新たな取り組みを持って会議運営の充実と推進を図っている。サービス評価や防災、虐待をテーマに話し合いを持ち、内容を質の確保、向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の地域ケア会議へ参加して、情報収集等を行っている。その際にはホーム便りを渡して、ホームの取り組みなどを伝えている。月1回、入居待機者状況を市へ報告している。	市は毎月地域ケア会議を主催し、隔月に事例検討会を実施するなど事業所をサポートし、事業所は積極的に参加しており、より良い地域福祉推進のための協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて身体拘束について学び、全職員が正しく理解している。毎月に職員会議の議題にも上げて話し合いをしている。日中玄関は施錠していない、その為、居間より玄関へ出る扉へセンサーを付けている。職員が出入りする際には、他の職員への声かけを徹底して安全面に考慮している。	高齢者の権利擁護や身体拘束、虐待に関する勉強会を事業所独自の内部研修で年間計画を有して実施し、職員の共有認識を図っている。さらに認知症ケア研修会を事業所独自に開催し、外部研修で学んだ内容や教材シートを活用して利用者本人の考察を深め、一人ひとりが抱える根本的な混乱の要因を探ったり、不安を取り除くケアの在り方を追求している。居室でセンサーマットを使用する際は、家族等の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や認知症ケア研修の際に学ぶ機会を作り、身体面、精神面ともに虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の中で成年後見制度などについて学ぶ機会をもうけている。現在活用する人はいないが、今後活用する人が出た場合に向けて支援できるよう体制は整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接や入居手続きの際などに入居者の方やご家族の方に不安や疑問点を訪ね、十分な説明を行い納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けている。ご家族には面会や電話での報告の時に要望等聞き、ケアプラン送付時にはアンケートを入れ、意見、要望を自由に記入できるようにしている。また、職員は入居者の日々の行動や表情などから、それぞれの思いを把握できるように努めている。それらを運営に反映させている。	利用者が帰宅の願望や今すぐに外出をしたい意向を表出した場合は、その都度利用者の本意と受け止め、対応しうる範囲で家族にも協力を得て支援している。また、内容を職員全員が把握できるよう申し送りを行い、利用者の心情に応じたケアの方向性を統一している。家族へは、事業所便り、電話連絡、来訪などの機会を通じて利用者の暮らしぶりや様子を詳細に伝達するとともに、定期的にアンケートを実施して意見が伝えやすくなる環境を整えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、施設長との対話の時間を設けている。それ以外でも職員会議の時などにも意見等を聞きそれを反映してくれている。	施設長は面談の際に現状に対すること・今後の要望、希望などの意見を聞き、運営法人のバックアップを得ながら就業環境等の整備に尽力している。有休取得への配慮や外部研修を受講しやすい体制、利用者と一緒に気軽に買い物ができるよう車両使用に関する措置など、現場職員の意見を運営に反映させている。管理者は、職員の気づきやアイデアを運営に取り入れ良質なサービス提供に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員と会話をし、働きやすい職場環境作りに努めてくれている。毎年、契約職員については労働条件等についての説明がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に行かせてくれたり、資格を取るよう勧めたりしている。また、内部研修の年間計画を立て、職員それぞれが担当して毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHの行事に入居者と共に参加させて頂いたり、当GHの行事にもお呼びして交流している。また、運営推進会議へ参加なども行い、サービスの質を向上させていくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時に本人に困っている事、不安な事など聞いている。また、入居後、本人の状態などを把握した上で本人の安心を確保するため、どう接していけば良いか、話し合い、考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時などに困っている事、不安な事などを聞いて、ご家族の思いを受け止め、その後の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や状況をしっかり把握して、本人やご家族と相談をしながら必要としている支援は何かを見極めて提供し、当GH以外のサービスの紹介等している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で台所仕事や掃除、洗濯等を協力して一緒に行うことで暮らしを共にする同士の関係を築ける様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話での連絡時などに日頃の様子、状態を伝えている。また、行事や外出の際には参加やお手伝いをお願いして、共に本人を支え合う関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人が気軽に来訪できる様に努めている。また、誕生日外出等で馴染みの店に行き食事したりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう出来る範囲でしている。	家族や本人から利用開始前の生活歴、思い出やエピソードを聴取し、今後も訪れたい場所や交流を持ちたい人を把握して、関係が継続できるように取り組んでいる。知人・友人が利用者を訪ねてきた際には、お茶を出し居室や居間などでゆっくり過ごしてもらったり、よく食べに出かけていた店へ職員と一緒に出かけ味を懐かしみながら店主と昔話を花を咲かせて楽しめるようサポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに助け合ったりする場面もあるが、それによるトラブルもあるので職員が間に入りながら、入居者同士の相性も考慮しながら皆が気持ちよく過ごせるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入院している病院へお見舞いに行ったり、家族に会えば挨拶したり、本人のその後の経過を聞いたりしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特に担当職員は日々のコミュニケーションを大切に表情や行動の中から言葉にならない思いをくみとり理念にもあるその人らしい生活が送れるように努めている。	職員は、利用者一人ひとりが発する言動や表情などから本人の思いを察することに努め、内容の記録や申し送りを徹底して職員間の情報共有と蓄積に努めている。利用者には合ったコミュニケーションの方法を工夫したり、入浴や散歩など他者が遠ざかる場面などで本意を引き出し、本人のニーズの確認を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接の時に聞いたり、その他入居後にも本人や面会の人より情報をもらい把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々なチェック表を活用し、その日の表情や言動等も良く観察した上で本人の現状の把握につなげている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成、モニタリングを定期的に行っている。本人の家族より要望や意見を伺い、それを計画の中へ反映させ、今必要としている介護計画を作成している。	定期的な統括モニタリング、アセスメントに向うプロセスを明確にしている。根拠となるベースとして短期目標を介護記録に毎日記すなど職員の意識化を図ったり、介護計画の実施の有無や様子を詳細に記載し、現状に即した計画の見直しにつなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録へ個別に生活面、ケアプランに項目を分けて毎日記入している。それを介護計画の中へ反映させ、今必要としている介護計画を作成している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況や気分に合わせて日課を変えたりして出来る限りニーズに対応している。個別で本人の希望に沿った誕生日を実施している。家族より希望あれば通院の送迎もしている。その他、緊急時の通院や衣類や日用品の買い物、眼鏡の修理などへも行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに行ったり、誕生日外出の際、馴染みの店へ行ったりしている。その際、お店側の方も協力をしてくれており、安心して外出を楽しめている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で、入居前よりかかっている、かかりつけ病院を受診されている方もいる。受診される際には必要な情報を提供している。また、当GHの協力医を希望されている方はGH職員対応で通院している。受診結果は随時家族へ報告をしている。	併設の特別養護老人ホームの看護師から緊急時の応援が得られたり、協力医療機関の看護師に利用者の健康状態について相談できるなど関係を築いている。医療機関に受診する際は、必要な情報をシートにまとめ医師に提供している。受診結果は家族に報告するとともに医師の指導が適切に活かされるよう個別記録に記している。家族、本人の希望による医療機関の選択が可能である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当GHIに看護職員は確保していないので協力医である北の峰病院の看護師や併設している特養の看護師に相談をしながら適切な受診等を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は病院へお見舞いへ行ったりして本人が安心出来る様になっている。病院関係者との連絡は家族を通して行われており早期に退院できる様、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘のあった文章化について検討している。契約書へは盛り込めないので事業計画の方に文章化している。また、家族へは定期的、随時に入居者の様子を伝えかかりつけ医にも相談をしながら今後について話し合っている。	医療連携体制加算・看取りにおける加算の体制下にはないが、可能な限り事業所で過ごせるよう努めている。また、併設の特別養護老人ホームとの連携を強化し、重度化等による特養入所が検討された場合はスムーズな移行支援となるよう配慮している。利用契約時に家族等に内容を説明し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが内部研修の中で学んでいる。また、緊急時のマニュアルがあり、いつでも見れるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月入居者も交えて避難訓練を行って全ての職員が災害時対応が出来る様実施している。また、年2回消防や防災センターの方に来て頂き、非常ベルや火災通報装置を使用して、併設の特養の職員にも協力してもらいながら消防訓練を行っている。	年2回消防署と防災センター、運営法人の協力を得て火災・昼夜を想定した避難訓練を実施し、そのほかに事業所単独での避難訓練を行っている。訓練の結果は職員間でも評価を行い、次回の訓練や臨場の際に活かしたり、施設点検状況を職員会議で確認するなど防災意識を高めている。土砂災害発令に伴う対応を話し合い、マニュアルをスタッフルームに掲示している。	一般住宅が近くに位置しない立地であるため、災害発生時は主として併設の事業所の支援が得られるよう協力体制を整えている。今後は、地震発生時における対応や災害時に備えた備品等の確保についても整備する意向を示しているため、運営推進会議の場でも協議を持ち、さらなる災害対策の強化について期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉掛けを基本に、その人に合った伝わりやすい、また、分かりやすい言葉を使った言葉掛けをしている。特に排泄に関しては、本人や周囲の人にも配慮した声かけをしている。	日々の研鑽を通じて、適切な接遇が利用者の暮らしを支える上でいかに大切かということが、事業所全体の認識となっている。夜間の職員減となる時間帯で支援が重なり忙しい状況になった場合などでも、不適切な声かけにならないように対応している。個人記録類は保管場所を取り決め管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた言葉を使って、本人が答えやすい問いかけをして少しでも本人の思いが出せるような働き掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、その人の希望に沿った支援ができる様に日課を変えたりしながら散歩へ行ったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に市内のヘアサロンの方に来て頂き、本人の希望にヘアカット等してもらっている。開設当初から来てくれている方なので入居者の方とも顔馴染で皆さん安心してやってもらっている。また、お化粧をしている方もおり、必要な物を切らさないように担当職員や家族で準備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食会議にも入居者の方にも参加してもらい希望のあった物をメニューに取り入れている。食事の準備や後片付け等出来る事は一緒に行っている。(男性の方も手伝ってくれることもある)自宅で使用していた食器を持ち込んで頂き、家庭的な雰囲気心掛けている。	職員が一ヶ月単位に献立表を作成し、食べたい物や旬の食材、栄養バランスに配慮した内容で提供している。食事に関する一連の作業に利用者ができるだけ参加できるよう場面づくりを行っている。食事中はBGMが静かに流れ職員も食卓を囲み和やかな雰囲気である。外食や行事食を盛り込んだり、野菜や乳製品、豆類などをミックスしたおやつ時のジュースも利用者の楽しみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分、食事量のチェック表をつけている。個人の嗜好や状態に合わせて摂取しやすい物を提供している。担当医より塩分や水分量について指示ある方については、個別に調節し提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいの声かけをして個々に合わせた口腔ケアを実施している。なるべく本人にやって頂き、後で職員の方で確認などしている。週1回ポリデント洗浄も実施している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を個々につけており、それにより排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導をして失敗のない様に対応している。可能な限りトイレでの排泄を支援し気持ちよく排泄が出来るようにしている。	利用者個々の排泄状況をアセスメントし、本人の生活リズムに応じた声かけや示すサインを汲み取り、適宜誘導を行っている。入院中に紙パンツを使用していた利用者が布パンツに移行するなど排泄が自立したケースもある。速やかでスムーズな職員連携が図れるよう、トイレに設置しているコールも利用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週3回食物繊維の多い野菜やヨーグルトを入れたジュースを作って提供したり、食事の中にも食物繊維の多い食品を取り入れている。また、散歩や体操をして体を動かしたり、腹部マッサージなども行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、その中で出来るだけ本人の希望に沿う様に支援している。重度の方は職員2名介助で対応して、安心、安全に入浴が出来る様にしている。入浴が好きな方には入浴日全てに入れる様にもしている。	日曜日以外の午後の時間帯に入浴できる体制をとり、希望により週に4日入浴する利用者もいる。入浴を拒む場合は時間や日にちをずらしたり、本人が入りたくなるような雰囲気づくりを行い、個々の負担感に配慮している。利用者の身体状況に応じて介助の職員数を増やし、重度化の利用者も湯船に浸かれるように対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の習慣や状況に応じて休息してもらっている。夜間良眠、安心出来る様、日中活動的にしている。自宅より持参した寝具を使用している人もおり、気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬マニュアルがあり、飲んでる薬や副作用などが分かる様になって、いつでも確認できるようになっている。薬が変更になった場合は、症状の変化等について要注意し、マニュアルの方も変更している。食事のたびに一人ひとりに薬を手渡しして飲んだのを確認している。自分で飲めない人は職員の方で介助している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意としている事を活かし、それぞれ出来る事の役割をお願いして一緒に行ったりしている。役割があることで安心したり、自信が持てたりしており、して頂いた時には感謝の気持ちを伝えている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、日に数回散歩へ出掛けたり、食材を買いに出掛けたりしている。家族とドライブや外食へ行っている人もいる。誕生日には本人の希望される場所へ出かけている。その際、家族の協力も得て一緒に出かけている。	天候が良い時期には気軽に散歩に出かけ、近くの御宮で参拝をしたり、周辺を散策するなどして気持ちよく過ごせるようにしている。地域などの祭典にも積極的に出かける機会を持ち、菊花展は何人かのグループに分かれてゆったりと鑑賞できるように配慮している。特別な楽しみとなる「誕生日外出」を企画し、本人の思いに沿って行きたい場所へ外出する個別の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている事で安心出来る人もおり、少額だが持ち持っている。しかし、十分に管理できない人もいるので担当職員の方で定期的に金額の確認をしている。そのお金で外出時などに好きな物を購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人と年賀状や葉書のやり取りをしている人もいる。自分で書けない人は職員が代筆したりもしている。また、職員が付き添って電話をかけたもしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に関してはエアコンや加湿器を設置して快適な状態になる様にしている。テレビの音量や話し声などにも配慮している。皆で作ったその季節に合わせたちぎり絵を飾ったり、居間の窓からは、皆で作っている野菜や花が見える様になっている。	リビングとダイニングが一つになった居間は利用者や職員が全員で集える広さがあり、大きな窓から外の景色も目に入り開放感がある。全体的に衛生管理が行き届き、トイレ・浴室も清潔に保っている。湯茶がいつでも飲めるように分かりやすい位置にポットなどを置いたり、トイレの場所を示す表示を工夫するなど配慮をしている。職員の歩く音が静かであり、人的環境にも注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファとそれぞれ気の合う人と個々に居場所が出来ており、それぞれ自分の心地よい場所できつろいでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に使い慣れた寝具やタンス、また、家族の写真や自作の書などを飾っている人もおり、心地良く、安心して過ごせる様工夫している。	本人や家族と相談をして、安心して過ごせる居室づくりを支援している。持ち込んだ家具や品々が便利良く使えるように配置を工夫したり、身体状況等に応じて備え付けのテーブルや椅子を居室外に移動している。愛着のあるものを飾り付けたり、傍らに置くようにして安心できる設えに配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室には、表札をつけている。浴室、トイレ、玄関には手すりがある。その他、ソファや食卓テーブルを手すり代わりにして安全に出来るだけ歩行などできる様見守りや一部助をしている。		